

1. 研究課題名：

阿蘇を構成する植生の蒸発散の比較研究：草原の維持は水資源涵養に寄与するか？



2. 研究代表者氏名及び所属：

宮沢 良行（九州大学東アジア環境研究機構）

3. 研究実施期間：平成 25～26 年度

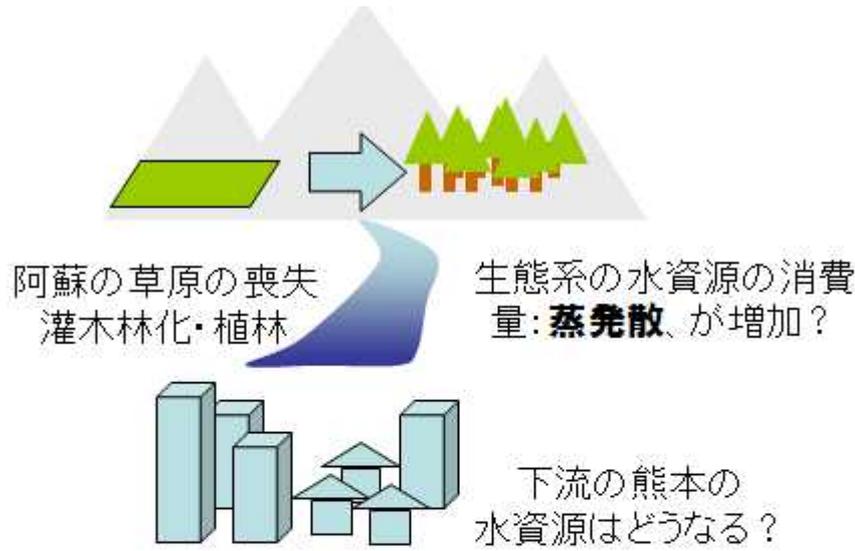
4. 研究の趣旨・概要

- ① 現在阿蘇では、草原が森林化してその面積が減少しており、保全活動が実施されている。草原から、水資源の消費「蒸発散」の大きい森林への移行は、下流の熊本市で進行する地下水位の低下との関係も示唆されており、その実態解明が必要とされている。
- ② 本研究では、水資源涵養機能を持つコモンズとしての草原の理解を目的に、阿蘇の6種の植生の蒸発散について、現地調査を通じたデータ収集・阿蘇全域での蒸発散量のモデル推定・成果の一般、学会、関連機関への公開、を行う。
- ③ これらの成果は、草原保全・回復の活動と、熊本市・県による地下水保全の取り組みの関連の理解を進め、各活動の一体化に貢献すると期待される。

5. 研究項目及び実施体制

- ①草原の蒸発散量の実測とその環境応答の解明  
(中央農業総合研究センター)
- ②森林構造の解析と蒸発散との関係の解明  
(熊本県立大学)
- ③森林植生による蒸散の解明と増減を生むメカニズムの解明  
(九州大学)

## 6. 研究のイメージ



■ 草原      出典:阿蘇草原再生全体構想概要版

